



第4回学校運営協議会を2月14日（金）に本校会議室にて実施しました。

今年度、最後の学校運営協議会となりましたので、令和6年度の学校評価と令和7年度の学校運営方針（案）について各委員から御意見をいただきました。各評価項目についての主な意見については以下のとおりです。



項目1「授業第一主義の徹底とICTの活用」

ICT活用の部分だが、教科の特性や固有性は重んじた方が良く個人的には思っている。主体的・対話的で深い学びというイメージや姿自体も教科の特性が関わってくると思うので、各教科の中で、学びが深いとはどういう状態なのかというのを議論のうえに、ICTがどういう活用の仕方がそこに寄与するのかしないのかという筋道の議論があると非常に良いのではないかなと思う。

ICTは使える教科はどんどんやるべきだし、使いづらい教科は無理してやらなくてもよいと思うが、活用できる教科は先生方も頑張っていて欲しい。そして、県内に広く発信してくれれば県全体のレベルも上がっていくのではないかなと思う。

項目2「豊かな人間性と社会性の育成」

第2回の学校運営協議会の際に弘高ねぶたの在り方を議論したが、この活動自体が、実践を通して他者との関わり方や自己を深く見つめる素晴らしい機会である。よって次年度は、弘高ねぶたを人間性・社会性の育成の大きな柱とすることを、はっきりと打ち出してほしいという希望がある。

この項目は、コロナ禍のような社会、環境の変化が起きると一気に実施できなくなるものであり、それを経験してきた。修学旅行に参加できなかった世代もあり、非常に憂いている。如何なる状況でもこの項目を達成させる方法を講じておくことが重要だと考える。

項目3「当事者意識を土台としたキャリア教育の推進」

探究活動の結果、自分が進みたい学部や学問を再発見し、1年次に思っていなかったような自分の将来を描くことができ、可能性を広げることになる。探究のテーマと志望学部との関連性について、強制度合いは緩くても良いと思う。

現状と課題において、徐々に受け身の生徒が増えつつあるということが引っかかっている。これは学習に対する取り組みなのか、学校行事に対するものなのか、もしくは自分の進路選択についてもそうなのか。もし、進路選択についてそういった生徒が増えてきているのであれば、根本的に鍛えていかなければならないと思う。

項目4「生徒・保護者及び地域と連携した学校改革の推進（弘高の持続可能性）」

国際交流開発プログラムについて、いくつか実施できたと思う。今年度は実際にそのプロジェクトに参加した生徒もいたり、海外フィールドチャレンジに挑戦した生徒もいたり、機運が盛り上がっている。そういった意味で、プログラムがしっかりと動いているということの評価に加えてはどうか。

1年間、地域の方々に支えられながら学校改革を着実に進め、運営することができました。どうもありがとうございました。